

話すこと・聞くこと

第2学年

大事なことを落とさずに聞き、友達の内容を深める質問をすること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。



この道具は、お母さんが困っているときに使います。

質問内容が観点に基づいていない。



お母さんは、他にどんなことで困っていますか？

話し手の内容も明確でないため、どこがいいのか具体的に言えない。

そんな道具を考えられてすごいです。

実践の概要

単元名

つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう
『あったらいいな、こんなもの』光村図書

目標 友達の話を読み、質問したり、感想を述べたりすることができる。

- 内容
- 観点に基づき、あったらいいなと思う道具を考える。
 - 観点に基づいて質問やアドバイスをする。
 - 増えた情報を聞く人がわかりやすくなるように整理する。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう	話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。
第5学年	田鶴野小を良くするために提案書を書こう	話し合う場面で、異なる意見を一つにまとめられない。
第4学年	大事なことを落とさない聞き取りメモ名人になろう	話し手の伝えたい大事なことを聞き落とさず、工夫してメモすることができない。
第3学年	幼稚園さんに学校生活の様子をつたえよう	互いの考えの共通点・相違点を的確に見つけられないために、意見がまとまらない。
第2学年	つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう	話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。
第1学年	きいて しらせよう	大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。

単元末の目指す姿

- 観点を明確にすることで、聞き手が道具の内容からずれない質問ができる。また、聞き取りシートを活用し、どの児童も話し手に質問できる。
- 話し手は、道具の説明の観点を明確にすることにより、聞き手がわかりやすい具体的な道具を考えることができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

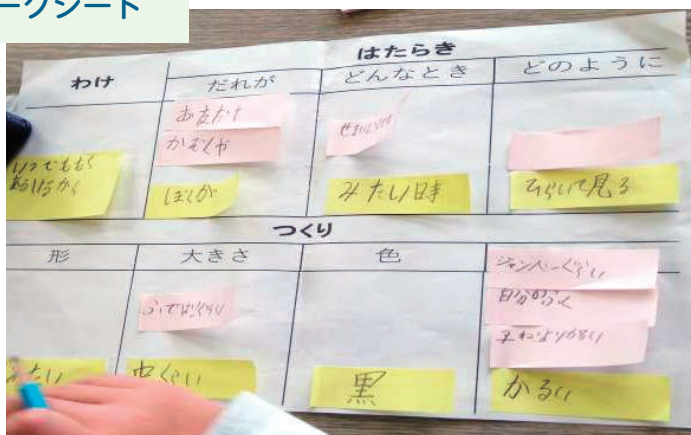
観点ごとに枠を設けたワークシートを用意し、読み取ったことを付箋で整理させる。

活動のねらい▶ ・聞き手は質問する観点を焦点化することができ、話し手は情報を付箋に残すことで、必要なものを取捨選択しやすくなる。

ここが
ポイント

「あったらいいな」と思うものについて、どんなことが説明できたら、聞き手にわかりやすく伝わるかを3観点で示す。付箋に自分の考えた情報を書き、観点ごとに分けられたワークシートに貼る。自分で考えた情報と、人から質問されたりアドバイスをもらったりして増えた情報では付箋の色を変える。付箋にすることにより、情報の整理がしやすくなる。

ワークシート



(期待される児童の姿)

話し手は付箋にメモを残すことで、どのような情報が付け加えられたのか、何が足りないのかが視覚的に理解できる。また、情報を取捨選択、分類する学習の際、付箋にすることで、どの児童も活動を容易に進めることができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

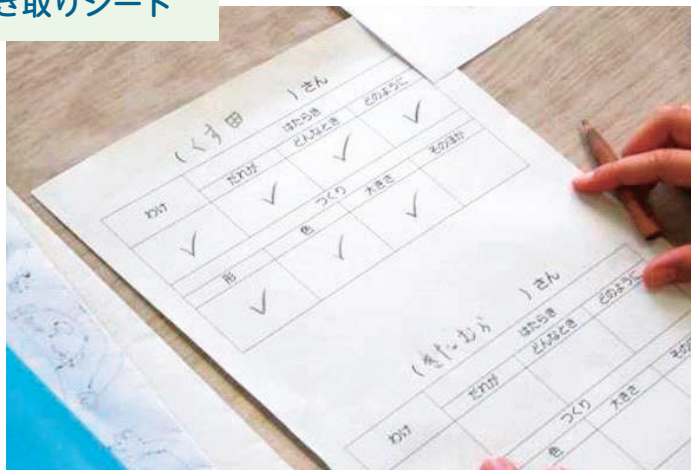
話し合いの際の聞き取りシートを用意する。

活動のねらい▶ ・聞き手が質問やアドバイスをするための観点を見つけやすくする。

ここが
ポイント

聞き取りシートは観点ごとに分ける。話し手の内容を聞き、話し手が説明した観点にはチェックを付け、質問したいことやアドバイスをしたい観点には「？」マークなどを付けるようにする。→わかっていることと、わからないことを視覚的にわかるようにすることで、見通しをもって質問やアドバイスを行うことができる。

聞き取りシート



(期待される児童の姿)

聞き手は、聞き取りシートにより、話し手が説明できていない観点や、はっきりしない部分が明確にわかり、進んで質問することができる。2年生にとって、メモ（聞きながら書くこと）は難しいが、チェックを入れる活動は抵抗なく行うことができる。

第2学年

書くこと①

観察メモをもとに書きたいことを決め、簡単な構成を考えて文章を書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

観察したことから書くことを選んだり、簡単な構成で文章を書いたりすることができない。

メモから文章にする時に、書く内容をメモから選ばない。

つぼみが5つさいて
います。
いちばん大きなつ
ぼみは、こめつぶく
らいの大きさです。
いちばん小さいつ
ぼみは、ごまくらいで
す。
つぼみのおいは、
ピーマンのおいがし
ます。

メモに書いた順番どおりに書いていて、一番伝えたいこととは関係していない。

実践の概要

単元名

かんざつ名人になろう

『かんざつ名人になろう』光村図書

目標 植物の生長を、観察記録文にして1年生に伝える。

- 内容
- 観察メモを取る。
 - メモから自分が伝えたいことを決める。
 - 観察記録文を書く。
 - 1年生に観察記録文を読んで聞かせる。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	説得力のある意見文を書いて、お別れ遠足の思い出を作ろう	自分の意見が深められなかったり、自分の考えを支える効果的な根拠が挙げられなかったりしている。
第5学年	提案書を書いて、班のつどいを『超変革』!	自分の考えを、他の視点から見直したり、他の条件などと関係付けたりすることができない。
第4学年	3年生にクラブのよさを伝えよう	自分の考えを明確にして、伝えたいことを写真や絵と関係付けた紹介文を書けていない。
第3学年	ぼうけん物語の作者になって出版記念会を開こう	内容的なつながりを考えて書きたいことを決めることができない。
第2学年	かんざつ名人になろう	観察したことから書くことを選んだり、簡単な構成で文章を書いたりすることができない。
第1学年	しらせたいなカードで、鈴原小学校の『いきもの』をしらせよう	メモしたことをもとにして、観点ごとにまとまりのある文章に書き表せない。

単元末の目指す姿

- 観察メモの中から情報を選び、友達に伝える（音声言語化する）ことで、自分の考えを明確にできるようになる。
- 取材と構成・記述とを往復できるワークシートにすることで、考えを整理したり深めたりすることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

観察メモからわかることについて、お尋ねを中心にペアで交流させる。

活動のねらい▶ ・1年生に伝えるべき生長が植物のどの部分にあるかを明確にできる。

ここが
ポイント

「もっとも伝えたいことは何か」と言われても、低学年児童が考えをつくることは難しい。友達の「生長したところはどこですか」という質問に答えさせることで考えを明確にさせることができる。

授業の様子



どこがいちばん生長
しましたか？

ぼくが生長をいちばん感じたのは
実の大きさです。

(期待される児童の姿)

友達の質問について、自分が1年生に伝えたい植物の生長部分を、観察メモから選んで発表(言語化)することで、自分が伝えたいことを明確にすることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

観察メモを見ながら、観察記録文が書けるワークシートを活用する。

活動のねらい▶ ・取材と記述を往復することができる。

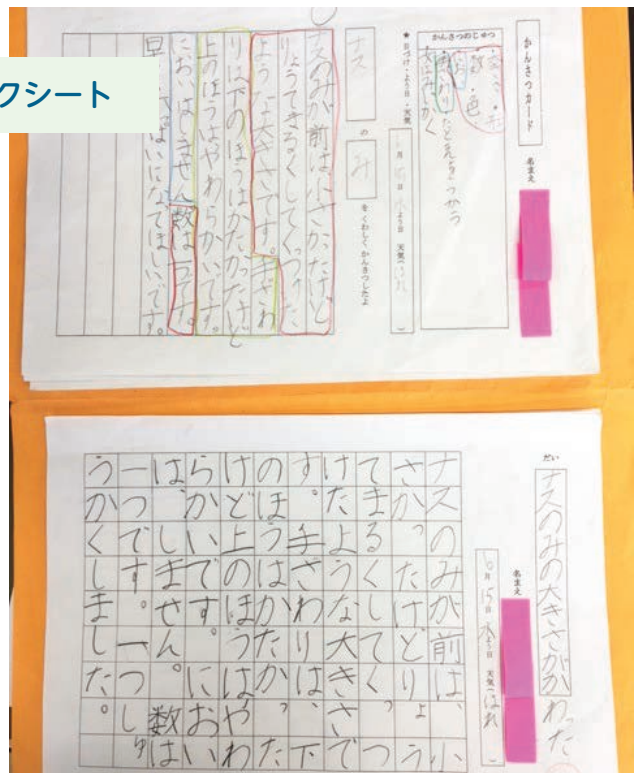
ワークシート

ここが
ポイント

ワークシートを上下段に分けてノートに貼れるようにする。上が観察メモ(取材)で下が観察記録文になっている。上下に貼ることにより、取材と構成・記述を往復することができ、考えを深められる。

(期待される児童の姿)

友達の質問に答えることで明らかとなった自分が伝えたいことに、赤鉛筆でマークをさせる。そのワークシートを上段に置くことで、自分の伝えたいことから観察記録文を書くことができる。



書くこと②

第2学年

自分の考えが相手に伝わるよう、順番に気を付けて書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られますか？～

見つけた大事な言葉を使って、順序よく書きまとめたり、不要な言葉を省いたりすることができていない。

同じ言葉を何度も使ったり、順序がばらばらになったりしている。



実践の概要

単元名

どうぶつのひみつをみんなでさぐる

『ビーバーの大工事』東京書籍

目標 大事なところに気を付けながら、文章を読んでわかったことや調べたことを順序よく書きまとめる。

内容 ・本文から、ダム作りや巣作りについての順序立った説明の構成や内容について読み取る。

- ・大事な言葉や順番を表す“つなぐ言葉”を文中から見つけ、書きまとめる。
- ・読み取った内容から「問いかけの文」や「詳しい説明の文」を作り、出し合う。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
第6学年	町の未来をえがこう	資料を正確に読み取っているが、「この資料が本文に述べられている要旨につながるものではない」という判断ができていない。
第5学年	和の文化について調べよう	自分の考えを明確に伝えるために文章構成を考えているが、効果的ではない。
第4学年	わたしたちの生活とロボットについて考えよう	様々な角度から考え、内容を整理して書くことや接続語や指示語、文末表現を効果的に使って書くことができない。
第3学年	要約名人になってもうどう犬リーフレットを作ろう	中心となる言葉や文を見つけて要約することができず、長い文を書き写してしまう。
第2学年	どうぶつのひみつをみんなでさぐる	見つけた大事な言葉を使って、順序よく書きまとめたり、不要な言葉を省いたりすることができていない。
第1学年	サラダでげんきおしゃべりレシピをつくろう!	大事な言葉を見つけ、順序に注意して正しく文や文章を書くことが難しい。

単元末の目指す姿

- ・本文中から大事な言葉を見つけ、順序を考え、簡単な接続語を使って書きまとめることができるようになる。
- ・読み取った内容をもとに、言葉を足したり削ったりして書きまとめることができるようになる。

書くこと③

第2学年

自分の考えを明確にしながら、場面のつながりを考えて文章を書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

場面がつながるように、伝えたい事柄を決められない。

様子が急に変わり、出来事をつなぐ言葉や次へ場面設定する書き出しの文がなく、前の場面とつながっていない。

野原の上をころがってあそびました。三人で楽しくあそんで帰りました。

「うん。あそぼう。」
「うん。あそぼう。」
「あひるくん、いつしよにあそぼう。」
「うん。あそぼう。」

「うん。あそぼう。」
「うん。あそぼう。」
「うん。あそぼう。」
「うん。あそぼう。」

次の場面へつながるような会話文や様子を表す文がない。

同じような会話文で、様子を表す表現も少ない。

実践の概要

単元名

絵を見てお話を作ろう

『絵を見てお話を作ろう』 東京書籍

目標 絵から場面の様子を想像し、一つ一つの場面がつながるように物語を書く。

- 内容
- 場面がつながるように物語を書くという単元の見通しをもつ。
 - 絵から場面の様子や人物を想像し、書きたい内容を明らかにする。
 - 書き出しの文や出来事をつなぐ言葉を使って、場面がつながるように物語を書く。
 - 物語を交流し合い、単元を振り返る。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
第6学年	自分の投書を新聞に投稿しよう	自分の主張に沿った理由とその理由につながる根拠が書けない。
第5学年	「和の魅力リーフレット」を作ろう	目的に応じた小見出しを作り、その内容を説明する文章を自分の考えと区別して適切な資料を入れながら書けない。
第4学年	広告大賞を目指して、夢の〇〇商品の広告を作ろう	2つの文章を読み取り、それぞれの意図や目的による違いが挙げられない。
第3学年	理由がわかるように書こう	自分の考えたこととその理由を整理し、順序立てて書くことができない。
第2学年	絵を見てお話を作ろう	場面がつながるように、伝えたい事柄を決められない。
第1学年	のりものかるたをつくろう	調べたことから、学習のめあて(役目・つくり・できることを意識して書く)に則した伝えたい内容が決められない。

単元末の目指す姿

- 場面の様子や人物について想像を広げ、物語を書くポイントを意識しながら、場面のつながりを考えて、書きたい内容を決めることができるようになる。
- 場面が変わるときに出来事をつなぐ言葉を活用したり、場面の書き出しや書き終わりに留意したりして、一つ一つの場面につながりがある物語を書くようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

物語を書くポイントを提示し、場面の様子や人物などについて、話し合わせる。

活動のねらい▶ 場面の様子や人物について想像を広げ、自分の書きたい内容を明確にすることができる。

ここがポイント

「いつ」「どこで」「だれが」「したこと」「ようす」「気持ち」「話したこと」など物語を書く上で考えるポイントを書いた掲示物を提示し、児童が場面に応じて書く内容を落とさず考えられるようにする。

授業の様子

木にとてもたくさんのリングがなっていて、びっくりしているよ。

くまはたくさん持って帰ろうと、リュックサックを持っているよ。

うさぎが「おいしそう」、くまが「早くとろう。」と言っていると思うな。



(期待される児童の姿)

物語を書くポイントを提示し、それをもとに話し合うことで、考える視点をもつことができ、書きたい内容が明確にもてたり、物語の展開を見通したりできるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

書き出しの例や出来事をつなぐ言葉を提示し、ワークシートに場面の冒頭の一文を書かせる。

活動のねらい▶ 前の場面とつながるように次の場面を書き始めることができる。
 ▶ 前の場面の文章を読み返し、次の場面へのつながりを考え直すことができる。

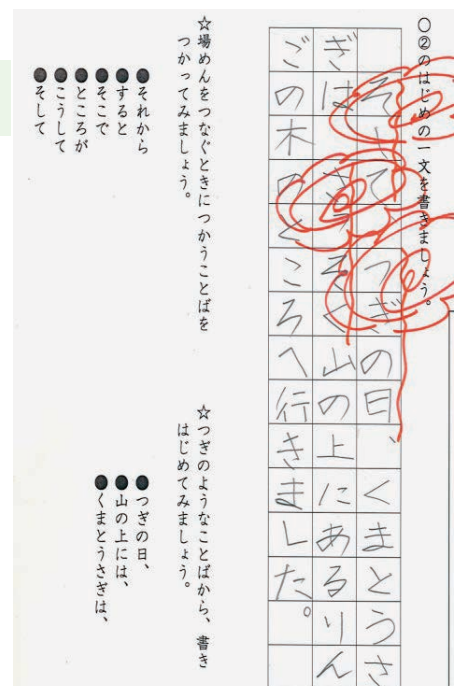
ワークシート

ここがポイント

【場面をつなぐ言葉：「それから」「すると」「ところが」など】、【場面の書き出しの言葉：「山の上には」「次の日」など】、場面の書き始めに使う言葉を提示し、児童がどの言葉を使えば場面がつながるか考えられるようにする。

(期待される児童の姿)

書き出しの例や出来事をつなぐ言葉をヒントに、ワークシートに場面の冒頭文を書き、交流する。聞き合うことで、場面のつながりに気付いたり、様子を表す言葉を書き加えたり、前の場面とのつながりを見直したりできるようになる。



読むこと①

第2学年

時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を読み、文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の考えをまとめること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

長文になると、「問い」に対する「答え」の部分が的確に見分けられない。

本文

②あそび方の一つに、「てつぼうよりむこうににげてはだめ。」など、にげてはいけないところをきめるものがあります。

T：②段落の遊び方はどんな遊び方と書いてありますか。
C：「鉄棒より向こうに逃げてはだめという遊び方です。」

「問い」が、「どんな遊び方があるのでしょうか。」であるので、あそび方というキーワードには気付いているが、本文の「きめるもの」の中は1例で、最後のものという言葉で置き換えてあることに気付いていない。

実践の概要

単元名

知っていることとつなげて読もう

『おにごっこ』光村図書

目標 説明的文章の典型である、「話題提示－事例の列挙－まとめ」という構成を理解し、「問い」に対する「答え」の部分を読み取りながら、「まとめ」の中の大切な文章がわかる。

- 内容
- 事例の中の「答え」の部分、カギになる言葉をポイントに読み取っていく。
 - 経験とつなげて「答え」の部分を読み取りながら、内容に対する自分の意見を発表する。
 - 「まとめ」の部分の中の大切な文章を考える。
 - 自分でも遊びの説明をする文章を書いてみる。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第6学年	自分の感じたことを、朗読で表現しよう	作者の思いを読み取るだけになって、自分の経験や思いを関連付けて、読みを深めることができない。
第5学年	説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> 本文をもとに文章の構成・構造をとらえられない。 自分の考えを述べるときに、自分の知識や経験と結び付けながら説明することができない。
第4学年	段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう	段落相互の関係を考えたり、叙述を自分の経験や知識と関係付けて主体的に読み深めたりできない。
第3学年	心にのこったことを、自分の言葉で表そう	伝えたいことを条件に合わせて、まとめて書くことができない。
第2学年	知っていることとつなげて読もう	長文になると、「問い」に対する「答え」の部分が的確に見分けられない。
第1学年	おはなしのおみせやさんごっこをしよう	自分の経験と結び付けて想像豊かに読み、自分の考えをまとめたり広げたりできない。

単元末の目指す姿

- 「問い」に対する「答え」の部分を読み取るときに、カギとなる言葉をポイントに読み進めることができるようになる。
- 「答え」の部分を読み進めるに従い、「まとめ」の中の筆者の伝えようとしている文章がわかるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

キーワードをもとに「問い」に対する「答え」の部分を見つける活動を行う。

活動のねらい▶ 指示語や接続語等に注目して説明の部分と「答え」の部分を見分けることができる。

ここが
ポイント

- 「一つに」 「～があります」 など、説明の部分と「答え」の部分を見分けるためのキーワードについて、探し方を全体で確認した後、各自で探させる。
- 児童が探したキーワードを全体で出し合い、「どのような箇所で行われているか」「他に同じように使われているところはないか」などの発問を通して分類・整理しながら、説明の部分と「答え」の部分を見分ける視点を明確にする。

授業の様子



他にも「～もあります」と書いてあるところがあるよ。ここも「遊び方」が書いてあるのかな。

「にげてはいけないところをきめるものがあります」の「～があります」と書いているので、ここが「遊び方」の部分だと思います。

(期待される児童の姿)

指示語や助詞・文末・接続語・何度も使われている言葉などのポイントに基づいて考え、「答え」の部分を見つけることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

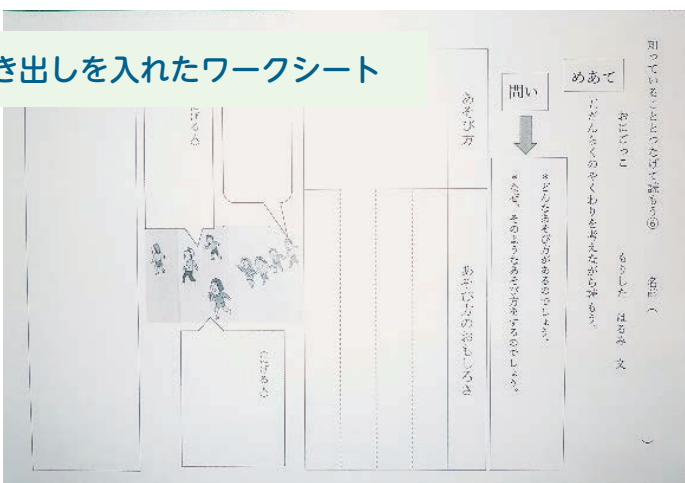
自分がした時のことを想起しながら挿し絵にふき出しを付け加え、本文に戻って読み進める活動を行う。

活動のねらい▶ 自分の知っていることや経験したことと関連付けながら読むことで、本文で説明している内容が具体的にどのようなことを表しているのか想像できるようにする。

ここが
ポイント

- ワークシートに、本文の挿し絵の子どもたちがどう言っているかを想像して書く。
- 本文中から、ふき出しの内容と似た言葉を探し、その文章が何を伝えようとしているのかを考える。

ふき出しを入れたワークシート



(期待される児童の姿)

自分の経験を思い出しながら本文を読むことで、内容をより近く感じる。そのようにして読み進めていくに従い、「なぜ様々な遊び方があるのか」という、「まとめ」の部分での筆者の考えについて、本論の部分と関連付けて考えることができるようになる。

読むこと②

第2学年

登場人物の気持ちや出来事について、想像を広げながら読むこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。

「ひよとして、だれかが、きみに お手紙をくれるかもしれないだろう。」

「きょうは、だれかが、きみに お手紙くれるかもしれないよ。」

「だって、今、ぼく、お手紙をまっけているんだもの。」

「信じてほしい」「早く来てほしい」「本当のことを言いたい」といった、かえるくんの強くなっていく気持ちを読み取ることができない。

実践の概要

単元名

音読げきをしよう

『お手紙』 光村図書

目標 人物の気持ちを場面ごとに読み取り、全体を通して、気持ちがどのように変化したかを読むことができる

- 内容
- 登場人物の会話や行動、場面を整理する。
 - 叙述をもとにして、場面ごとに登場人物の気持ちを読み取る。
 - 読み取ったことを音読劇にする。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
第6学年	宮沢賢治が創り出す世界を味わおう	登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえることができず、主題にせまる考えをもつことができない。
第5学年	すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう	一方的なものの見方から抜け出せず、主題にせまる感想をもつことができない。
第4学年	読んで考えたことを話し合おう	登場人物の姿・様子について、文中の一部から表面的にしかとらえられない。
第3学年	場所の移り変わりをとらえて感想をまとめよう	中心人物の様子を表す言葉から、中心人物の置かれている状況を想像して、気持ちを書くことができない。
第2学年	音読げきをしよう	叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。
第1学年	音読発表会をしよう	場面の様子や登場人物の言動を表す言葉を見つけ、想像を広げることができない。

単元末の目指す姿

- 動作化をすることで登場人物の視点をもつことができ、その人物に寄り添って気持ちを想像することができる。
- ワークシートを用いて、根拠を明らかにしながら登場人物の気持ちの変化を読み進めていくことができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

動作化を取り入れながら、言動と気持ちを結び付けさせる。

活動のねらい▶ 登場人物になりきることで、どんな考えや気持ちが理由となって、その言動を行っているのかを関連付けることができる。

ここがポイント

役割演技をすることで、立場による感じ方の違いに目を向けたり、自分の経験と関係付けたりする手助けとする。“動作の変化”や“繰り返し”に着眼させることで、その中にある人物の気持ちを想像できるようにする。

授業の様子



なぜ同じようなことを、かえるくんはくり返しているのだろう。

「かたつむりくん、早く来て！」っていう気持ちがどんどん強くなって、がまんできなくなってきたんだよ。

(期待される児童の姿)

動作化をしながら、登場人物の視点に立ち、言動を追っていくことで、その理由となる気持ちをとらえていくことができる。また、行動を比べていくことで、直接は書かれていない人物の気持ちを考えることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

ワークシートを用いて、自分の考えをまとめた上で、意見を交流する活動を行う。

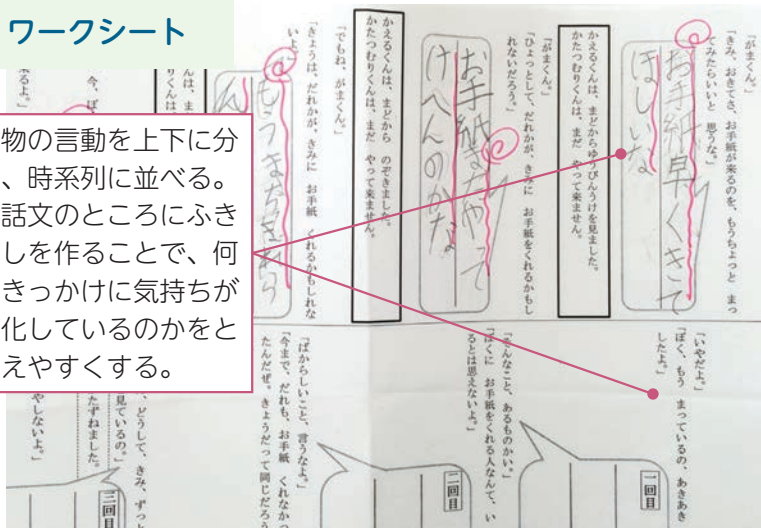
活動のねらい▶ 自分の考えや立場を明らかにした上で、全体交流に臨むことができる。

ここがポイント

ワークシートへの書き込み手順を毎回同じにしておくことで、児童がスムーズに作業できるようにする。登場人物の言動を上下に分け、時系列に並べることで、どの言葉や行動で人物の気持ちに変化があったのかをとらえやすくする。

ワークシート

人物の言動を上下に分け、時系列に並べる。会話文のところにふき出しを作ることで、何をきっかけに気持ちが変わっているのかをとらえやすくする。



【かえるくん】

【がまくん】

(期待される児童の姿)

登場人物の会話文から、その言葉の中に隠された気持ちを考えることができる。また、意見交流では、友達との考えを比べることができ、自分の読みを深めることができる。